八浜町並み保存拠点施設

八浜地区においては、地区の財産である「だんじり」「やっこ」を保存継承していくための保存会、八浜で生まれた「鳥人幸吉」に関する研究や行事を進める「櫻屋幸吉保存会」も組織されています。このように八浜の町並みと文化は、八浜の町並みを愛し、伝統を誇りに思う住民の存在によって支えられています。

八浜町並み保存拠点施設は、このような町並み保存活動の拠点として、また、本町通りにおける連続的な町並み景観形成のためのリーディング施設として整備したものです。

■建物のごあんない

この建物は、旧八浜町長、衆議院議員などを務めた藤原元太郎の旧宅で、八浜地区における代表的な伝統的建造物です。

□建 築 年 次　江戸末期から大正時代

□建物の特徴　比較的大規模な町屋敷で、本町通り沿いには町屋型の母屋、庭側に離れや土蔵群を配している。また、側面や裏側は、庭を板塀で囲んでいる。

八浜の町並み

□藤原元太郎翁寿像

この像は、藤原元太郎の功績を讃えるため、昭和二十五年に現在の八浜中学校校庭に建立されたもので、拠点施設の整備に併せ移設したものです。陶製の立像と共に、同氏の経歴・功績などが記されています。

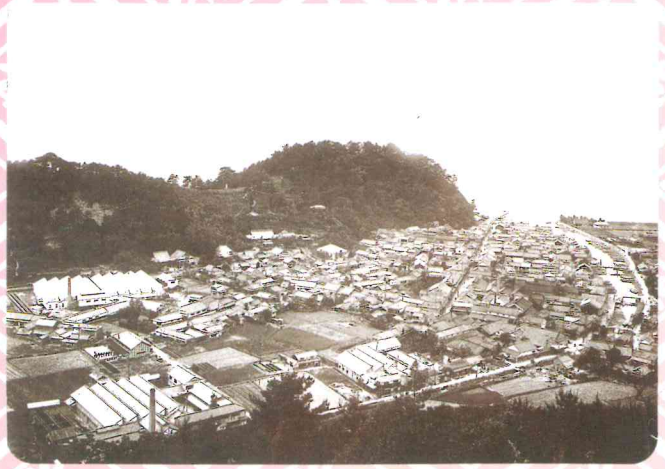
□離れ（会議室・休憩室）

木造二階建・本瓦葺・大正時代に建築

□蔵（1・2）

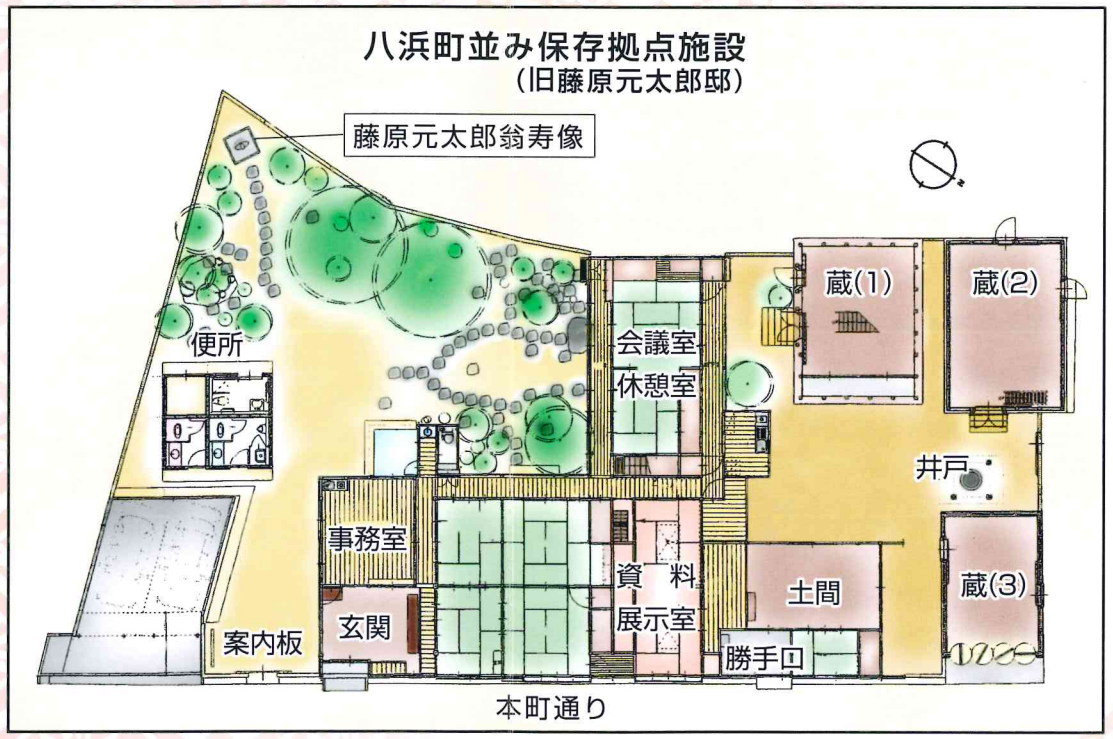
蔵1　衣装蔵として使用されていた。

蔵2　主に屋外で使用する道具類の収納場所として使用されていた。



昭和初期の八浜の町

当時の生活がしのばれる。



□井戸

□蔵3

岡山県重要有形民俗文化財に指定されている「だんじり」が収納されています。

□資料展示室

今日では目にすることが珍しくなった生活道具類、八浜地区の明治から昭和初期にわたる生活資料や写真また、藤原元太郎ゆかりの品々などを展示しています。

□母屋

木造つし二階・本瓦葺

外観はしっくい塗り・なまこ壁・板張り

※つし二階

大正時代初期頃までは生活の中心が一階であり、二階は倉庫などとして使用するケースが大部分であったため二階の立ち上がりを低くしたもの

■八浜の歴史・町並み

八浜の町は、児島湖に面し、多くの社寺群が集まる両児山の東に位置し、地区内にはかつて港でもあった元川が流れ、東に金甲山、南に大乗権山に囲まれ、落ち着いた風光明媚な環境の中にある。また早くから瀬戸内海における重要な航路の拠点として位置付けられ、十五世紀前半には集落の形成が始まったといわれている。

児島湾の存在は港の機能だけでなく、漁業にも大きな恩恵を与えた。特に明治期以降には、ハイガイの養殖産業が八浜に大きな富をもたらした。また、元川の水運を利用した酒造や醤油の譲造業が繁栄し、近代には繊維・縫製産業も興った。

八浜には、こうした歴史的な環境と明治初期から昭和初期を中心とする町屋や土蔵からなる伝統的な町並みが維持されているとともに、復活した「だんじり」など多くの独特の文化が蓄積されている。